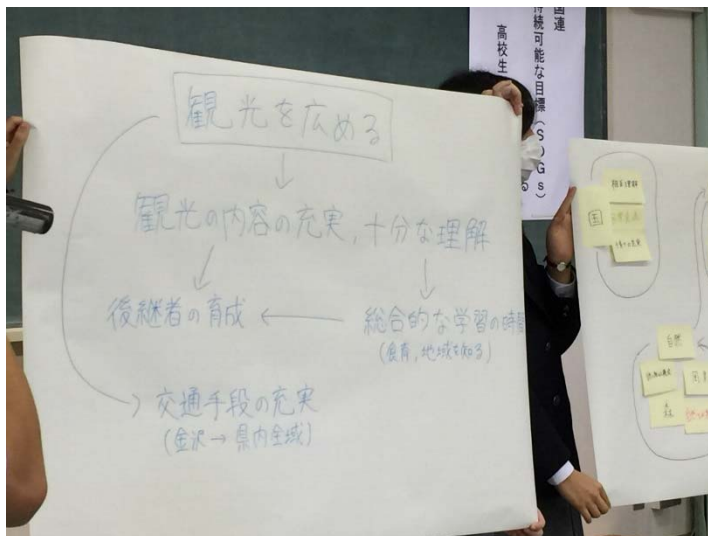


## 国連大学ワークショップ発表内容@金沢泉丘高等学校

※発表は、各班に布陣されたOG・OBの誕生月順に進められた。「自分の力ではどうにもならないことが世の中にある」というのを体験するためだ、とは半分ユーモア、半分本気の発表手法とのこと。

### 【4月グループ】

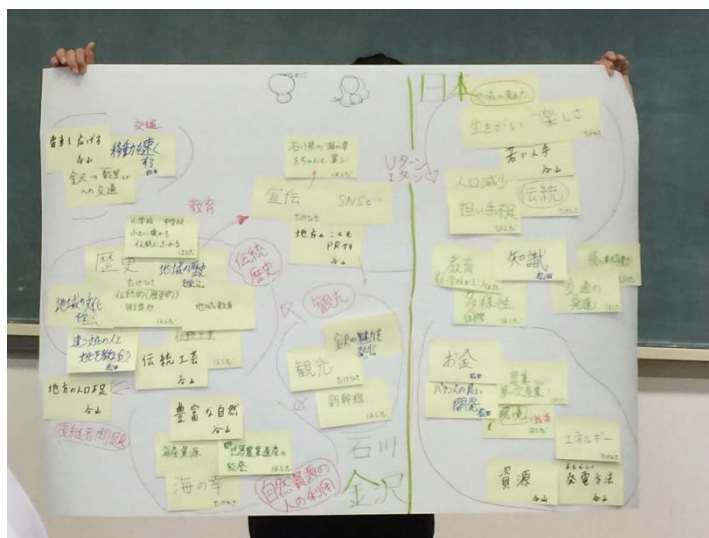
多くの観光客が金沢市内だけを見て帰っていくことを憂い、その原因を交通手段の不足と情報不足と分析。インフラ整備と交通案内アプリ開発といったハードとソフト両面での充実をはかることで、金沢以外の景勝地（能登や白山など）にも足を運んでもらうことで県内の観光業を充実させる。雇用創出が実現すれば経済的に豊かになり、地方自治体が資金を得ることになり、それは地域の暮らしにフィードバックされ、持続可能な社会が実現する。この動きを全国に広めれば、活性化する地方自治体が増えると思う。



（北村評）地域の魅力から観光、そして教育、インフラ、経済と循環する視点を持っているのが良い。

### 【5月グループ】

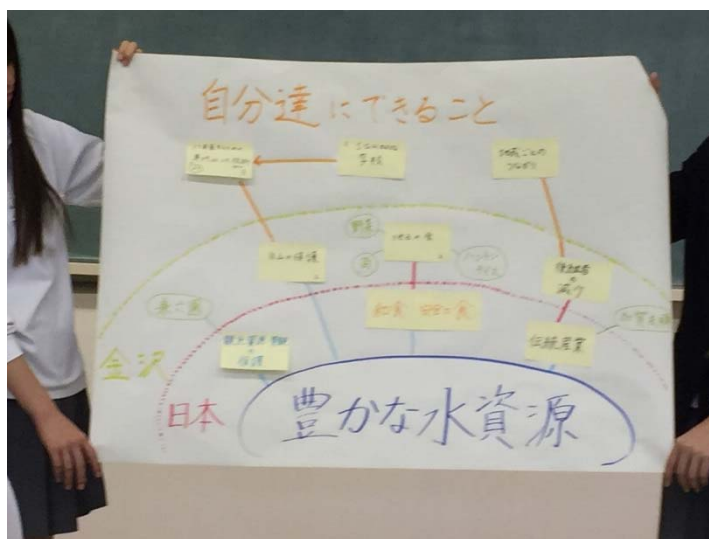
金沢以外の地域では、小・中学校で伝統工芸などについて学ぶ機会が少ない。地域について学ぶ機会を入れることで、今まで当たり前と思っていたことが、実はすごいことだと知り発信しようという気になる。他と違うとわからなければ他の人に伝えたいとは思いつかない。周辺他県の人と交流する機会を設け、比較しあうことで差異が見えてくる。教えるために学ぶので、担い手も増えると思う。



（北村評）地域の魅力を、他県との「比較」から検証する考え方がよかった。比較することで見えてくることもある。

## 【7月グループ】

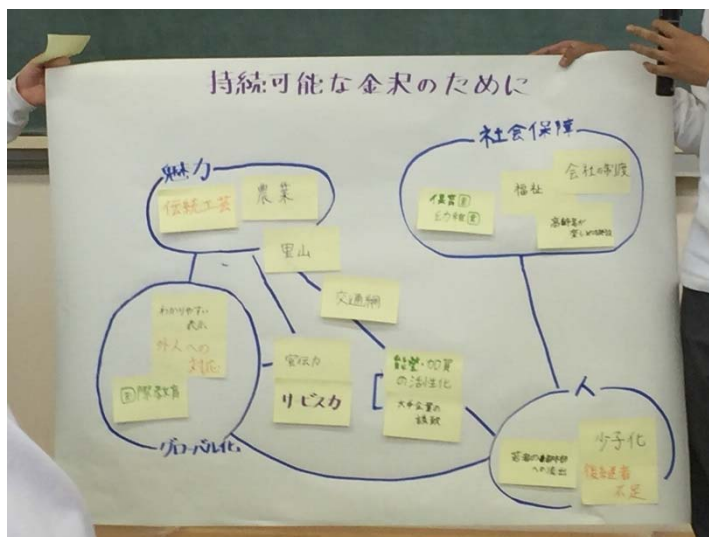
持続可能な社会を作るために必要なものは、「豊かな水資源」と仮定した。たとえば、兼六園の池から水がなくなったら、あの景観の魅力もなくなるので、人が来なくなる。水がないと魚も野菜も食べられなくなる。白山の雪解け水が金沢の重要な水資源だと聞いたことがあるが、それもなくなる。それを知らない人がいると思うので、学校で学んだり、より良い社会の発展のために、専門家を呼んだり、自分たちでも知識を持つことが大事と感じた。地域のつながりによって、後継者不足などの問題も解消する。



（北村評）普通は個人がいて、金沢があって日本、地球と考えがちだが、まず豊かな水資源と決めて、金沢、そして自分たちができることをまとめたのがいい。自分たちができることに可能性がたくさんあるとイメージできる。

## 【9月グループ】

持続可能な金沢、石川に必要なことを4つにまとめた。金沢の魅力には、伝統工芸や農業、豊かな自然（里山の景観）がある。伝統工芸や農業は後継者不足が問題。小・中学校で伝統工芸等について学ぶ機会をもっと増やしてもいいと思う。また、新しくできる商業施設は基本的に若者がターゲットになっていることが多いが、もっと高齢者が楽しめる施設があってもいいと思う。若者が都心部に稼ぎに出てしまうことも問題。グローバル化は、外国人観光客過ごしやすい環境づくりはもちろん、外国でどんなことが起きているのかを知るために国際教育が必要だと感じた。大手企業が金沢にあれば雇用が生まれて都心部への人材流出が防げる。そのためには金沢がより魅力ある都市になることが求められる。魅力ある都市になれば人が集まるので、福祉や保育園も整備されるはず。

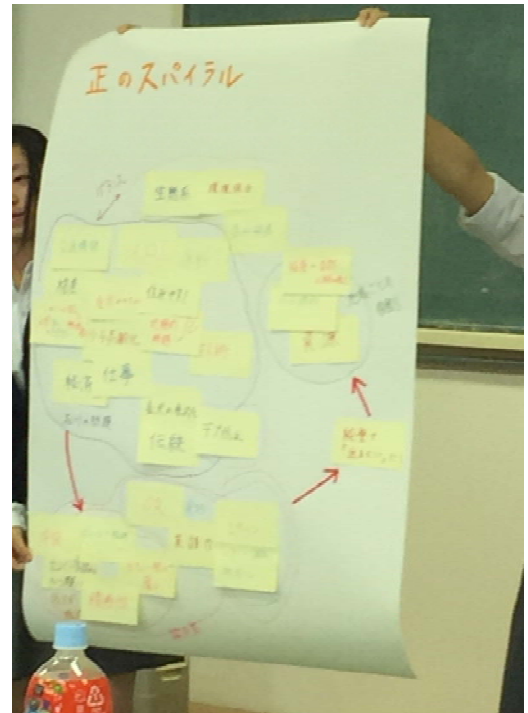


（北村評）テーマの中でのつながり、テーマごとのつながりに目を向けて、双方向につなげてどうしたら高め合えるかを考えている点が優れている。

## 【10月グループ】

モノを変えるのではなく、根底にある私たちの精神を変えていこうとする提案。「出る杭は打たれる」ということわざがあるが、石川県の形状は出っ張っているのに、目立ってこなかった。出る杭は打たれるというより、出ない杭は腐る！能登半島の魅力をPRして、出っ張る必要がある。外国人観光客に集まってもらう。彼らをガイドするために英語力をつけることも需要。里山や海、自然の豊かさを地域の役割を明確にすることで、自然の大切さを自ら証明する。それがグローバルに広がることで、諸問題の解決につながるのではないかと。

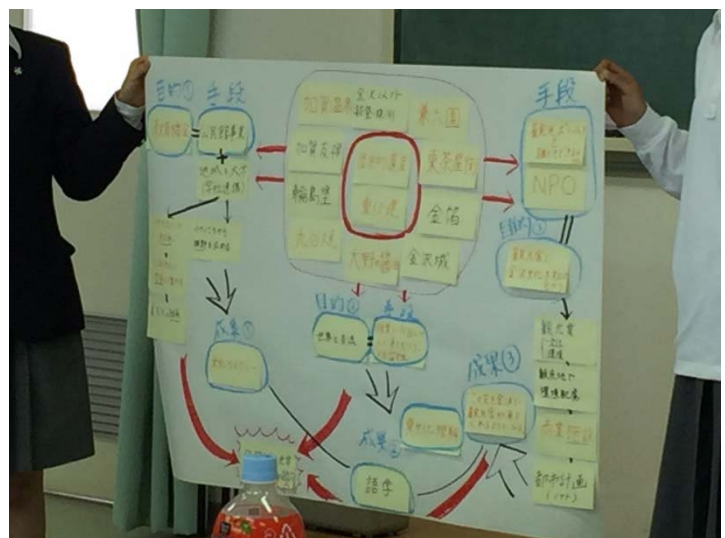
（北村評）発想を変えようという考えはすごくいい。象徴的なものとして、出る杭という例えを用いて、出る杭を目立たせようとしたね。石川県だけじゃなくて、世界に行くんだという方向性もいいと思う。



## 【12月グループ】

観光施設がたくさんあるが、あまり地元の人には行かない。石川県にある観光産業をどのように生かそうかという点から考えた。まず、高校生による外国人観光客への無料ガイドを提案する。学校の授業だけでは楽しくないので、実践で学ぶことが大切。何事も楽しくないと続かない。学びの場として、公民館の活用も提案する。専門家を呼んだり、他の地域の生徒も呼んで、一緒に金沢の文化について学ぶことで、他の文化への理解も深まるし、金沢の文化リテラシーが高まる。外国人ガイドのノウハウにも役立つ。

観光客が金沢の有名スポットだけを見て帰るのが問題だと思うので、金沢をもっとよくしてもらおう努力が必要だと思う。今は一部だけで実施している観光ボランティアだが、誰でも出来るようにするNPOをつくる。結論、「高校生が、英語で、観光ガイドをする」。



（北村評）目的、手段、成果を明確化したのがよかった。高校生ができることにひきつけて考えている。

以上